

太田 治子（おおた・はるこ）

1、プロフィール

小説、エッセイをみずみずしい文章で綴る。

NHK の「日曜美術館」(昭和 51～53)の司会を務めるなど美術に対する造詣も深い。

<生没>

1947(昭和 22)年 11 月 12 日 ～

<代表作>

「手記」「津軽」『青春失恋記』『私のヨーロッパ美術紀行』

『母の万年筆』『心映えの記』『気ままなお弁当箱』

<青森との関わり>

太宰治と『斜陽』のモデルといわれる太田静子との間の娘。作家津島佑子は異母姉にあたる。

2、作家解説

小説家、随筆家、童話作家。神奈川県生まれ。父は作家の太宰治。母は『斜陽』のモデルといわれる太田静子。明治学院大学英文科卒業。亡くなった母の思い出を書いた昭和 60 年の『心映えの記』は、60 年上半期第 93 回直木賞候補作となり、第 1 回坪田譲治文学賞を受賞する。長部日出雄は「……ここにあきらかに、すぐれた芸術だけに感じられるカタルシス(浄化作用)がある。文学の最大の任務のひとつである救済がある。文章も本当に素晴らしい。肉親の死を描いて、これほど深さと高さに同時に達した文章をぼくはほかにそうおもい出せない」(「中公文庫」解説)と称賛のことばを贈っている。

美術に対する造詣も深く『ノスタルジア美術館』などの著書、『気ままなお弁当箱』など、すぐれた随筆を発表している。

3、資料紹介

○『手記』

図書

1967(昭和 42)年3月 20 日

195mm×135mm

「手記」「津軽」(原題「宿願の津軽に父太宰治を求めて」)の2編所収。「手記」は作者 17 歳の時発表。生い立ちの記で『斜陽』のモデルといわれる母・太田静子との窮乏生活を率直に綴って話題となる。「津軽」は、第5回「婦人公論」読者賞受賞作品。